

34.4 から 10.8%と確かに減少していた。ところが、既婚者では男性の場合 12.5%から 10.6%と大きな変化はなかった。むしろ、女性では 5.0%であったのが 10.4%と有意 ($p<0.01$)に高値を示していた。これは 35 歳以上の既婚女性に顕著で 4.2%であったのが 11.0%と既婚男性の 12.2%と同じような高値を示していた。また、35 歳未満においては 8.7%であり有意差はみられないものの既婚男性の 6.7%を上回っていた。

表6-2. 現在決った相手以外（配偶者以外）と性的関係を持った割合

配偶者以外の性的関係			有効回答数	あり	(%)
男性	未婚	35歳未満	128	24	18.8
		35歳以上	79	18	22.8
	未婚計		207	42	20.3
	既婚	35歳未満	93	6	6.5
		35歳以上	238	29	12.2
	既婚計		331	35	10.6
総計			538	77	14.3
女性	未婚	35歳未満	141	18	12.8
		35歳以上	63	4	6.3
	未婚計		204	22	10.8
	既婚	35歳未満	126	11	8.7
		35歳以上	335	37	11.0
	既婚計		461	48	10.4
総計			665	70	10.5

参考までに前回調査の既婚男性の35歳未満は、9.9%、35歳以上12.1%で、既婚女性の35歳未満7.5%、35歳以上7.0%であり、今回調査において女性の数値が上昇していた。

既婚者における不倫関係に近い形態をとっていたものを図2と3に示す。この数値は些か驚くべきものと考えられ、II項の異性に対する意識のセックスへの関心度や関わりで明らかにされた既婚の高齢女性の低下に関係していることも窺われるところである。

図2. 既婚男性における性的関係者

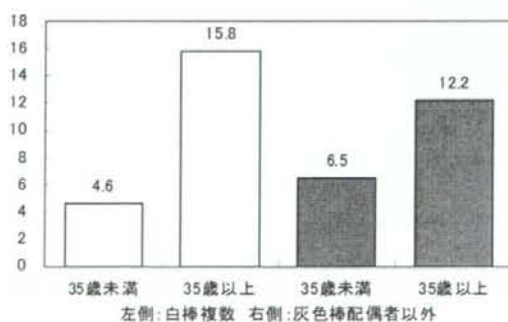
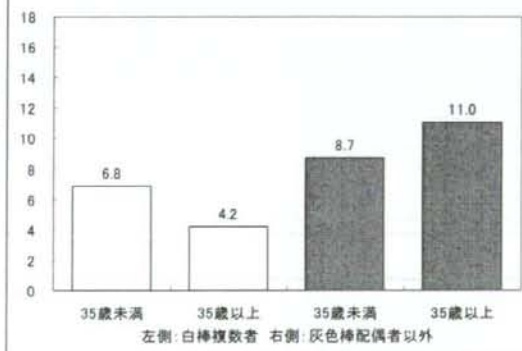


図3. 既婚女性における性的関係者



4. 最近1ヶ月間の性交頻度

性経験者の中から最近1ヶ月間の性交渉の頻度を問いかけている。この問いかけは少子化社会を呈するわが国において重要な鍵を握っているものと考えている。すなわち、「望まれた妊娠」、「望まれない妊娠」と「望めない妊娠」の3つが女性の基点であり、社会的現象となって問題となる「人工妊娠中絶」と「不妊症」という二つの背景が絡んでいる。ここでは、その頻度について「週1回以上」を妊娠の可能性について妊娠高レベル群、「月3-4回」を妊娠中レベル群、「月1-2回」を妊娠低レベル群、「月に1度もなかった」を既婚者にはあえてセックスレス群と言葉を置き換えながら集計してみた。

男性と女性の「週1回以上」は男性12.9%、女性11.7%、「月1-2回」15.8%、15.2%、「月2-3回」27.3%、26.1%「無」39.5%、40.1%、「無回答者」4.5%、7.3%と殆ど同じ値であった。

男性の未既婚者間でみると「週1回以上」が未婚16.4%、既婚10.9%と既婚者の方が有意差は認めないものの低値であった。「1ヶ月間無」は未婚46.9%、既婚34.8%であり後者が有意($p < 0.01$)に低値であった。「月3-4回」と「月1-2回」において差は認められなかった。世代間においては若い群に性交頻度が高い傾向が窺われたが、35歳未満群では「週1回以上」が未婚132名中28名(21.2%)、既婚94名中20名(21.3%)と全く同じであり、同様に「月2-3回」では未婚23.5%、既婚22.3%とこれも殆ど同じ値であった。「月1-2回」では未婚10.6%に対し既婚28.7%と既婚が有意($p < 0.001$)に高値となり、「1ヶ月無」において未婚42.4%、既婚22.3%と未婚が有意($p < 0.001$)に高値であった。35歳未満の男性においては「月3-4回」以上の頻度では差がなく、未婚者は「1ヶ月無」が多く、既婚者で「月1-2回」が多いということは妊娠低レベル群ともいえる「ルーティンセックス」に傾きかけているようにも窺われた。35歳以上に対しては、「週1回以上」未婚8.6%、既婚6.1%有意差はないものの既婚が低値であり、「月2-3回」においてのみ既婚が13.1%と未婚4.9%と高値を示すも有意差はなく、「月1-2回」は既婚35.9%、未婚39.5%とやや高く、「月無」においてのみ未婚者が有意($p < 0.05$)に高値であった。

既婚男性において35歳未満のセックスレスが22.3%、妊娠低レベル28.7%であり計51.0%が子どもを作り難い性の営みであったことが窺い知れた。35歳以上ではセックスレス39.6%、妊娠低レベル35.9%、計75.5%と4分の3とより高値を示していた。

女性においては「週1回以上」は未婚19.2%に対し既婚8.7%と既婚者の方が有意($p < 0.001$)に低値であったが、「月2-3回」では未婚11.1%、既婚15.8%と後者が高値を示すも有意差は認めず、「月1-2回」既婚28.5%、「月無」既婚37.7%と未婚女性に比べ高値で有意差($p < 0.05$)を認めた。これを35歳未満と35歳以上の未既婚で比べると未婚者の「月無」が65.6%であり既婚の41.0%と未婚が有意($p < 0.001$)に高値であったが、その他では有意差を認めることはなかった。

表 6-1. 男性の最近 1 ヶ月間の性交渉の頻度

	世代	週 1 回以上	月 3-4 回	月 1-2 回	無	無回答	総数
未婚	16-24 歳	18(33.3)	13(24.1)	7(13.0)	14(25.9)	2(3.7)	54
	25-34 歳	10(12.8)	18(23.1)	7(9.0)	42(53.8)	1(1.3)	78
	35-44 歳	6(9.4)	4(6.3)	16(25.0)	34(53.1)	4(6.3)	64
	45 歳以上	1(5.9)		6(35.3)	10(58.8)		17
未婚男性計		35(16.4)	35(16.4)	36(16.9)	100(46.9)	7(3.3)	213
既婚	16-24 歳	2(66.7)			1(33.3)		3
	25-34 歳	18(19.8)	21(23.1)	27(29.7)	20(22.0)	5(5.5)	91
	35-44 歳	12(7.0)	20(11.6)	62(36.0)	69(40.1)	9(5.2)	172
	45 歳以上	5(6.8)	12(16.4)	26(35.6)	28(38.4)	2(2.7)	73
既婚男性計		37(10.9)	53(15.6)	115(33.9)	118(34.8)	16(4.7)	339
未既婚不明男性				1(20.0)	2(40.0)	2(40.0)	5
男性総計		72(12.9)	88(15.8)	152(27.3)	220(39.5)	25(4.5)	557

表 6-2. 女性の最近 1 ヶ月間の性交渉の頻度

	世代	週 1 回以上	月 3-4 回	月 1-2 回	無	無回答	総数
未婚	16-24 歳	14(24.6)	9(15.8)	13(22.8)	20(35.1)	1(1.8)	57
	25-34 歳	19(21.8)	9(10.3)	19(21.8)	37(42.5)	3(3.4)	87
	35-44 歳	6(13.0)	4(8.7)	9(19.6)	27(58.7)		46
	45 歳以上	1(5.6)	1(5.6)	1(5.6)	15(83.3)		18
未婚女性計		40(19.2)	23(11.1)	42(20.2)	99(47.6)	4(1.9)	208
既婚	16-24 歳	3(60.0)	1(20.0)		1(20.0)		5
	25-34 歳	19(14.8)	24(18.8)	39(30.5)	37(28.9)	9(7.0)	128
	35-44 歳	13(5.4)	36(15.0)	68(28.3)	97(40.4)	26(10.8)	240
	45 歳以上	8(6.6)	17(14.0)	34(28.1)	51(42.1)	11(9.1)	121
既婚女性計		43(8.7)	78(15.8)	141(28.5)	186(37.7)	46(9.3)	494
未既婚不明女性			4(50.0)	2(25.0)		2(25.0)	8
女性総計		83(11.7)	105(15.2)	185(26.1)	285(40.1)	52(7.3)	710

いずれにしても既婚女性の 35 歳未満で妊娠低レベルが 29.3%、セックスレスが 28.6%、計 57.9%と既婚男性より 6.9 ポイント上回っていた。35 歳以上では低妊娠レベル 28.3%、セックスレス 41.0%、計 69.3%となり既婚男性より 6.2 ポイント下回っていた。

子どもを作り難い性の営みは既婚男性で 68.7%、既婚女性で 66.2%であったことは、少子社会の日本の現状と考え合わせるなら、ここに根本的な問題点が明らかに示されたと考え

える。

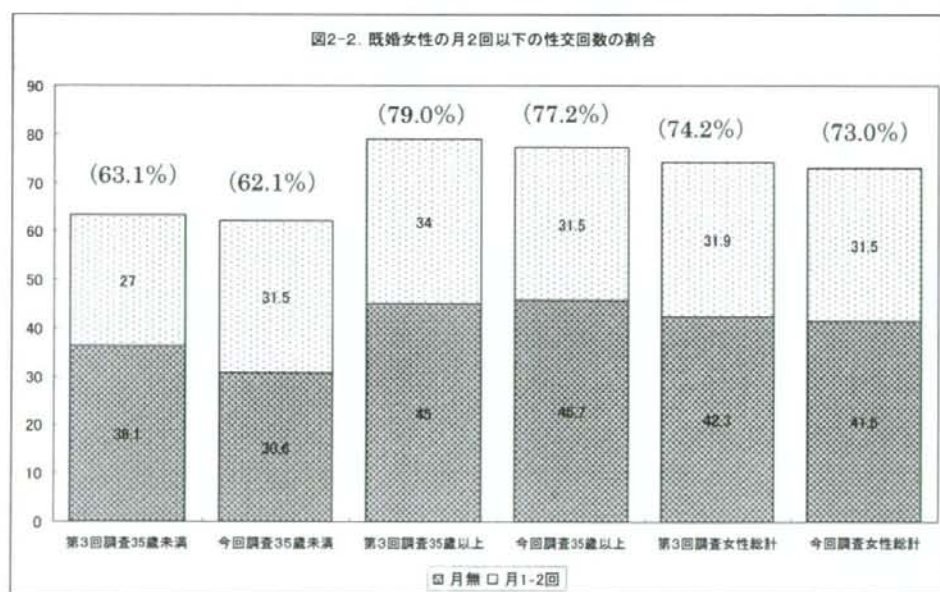
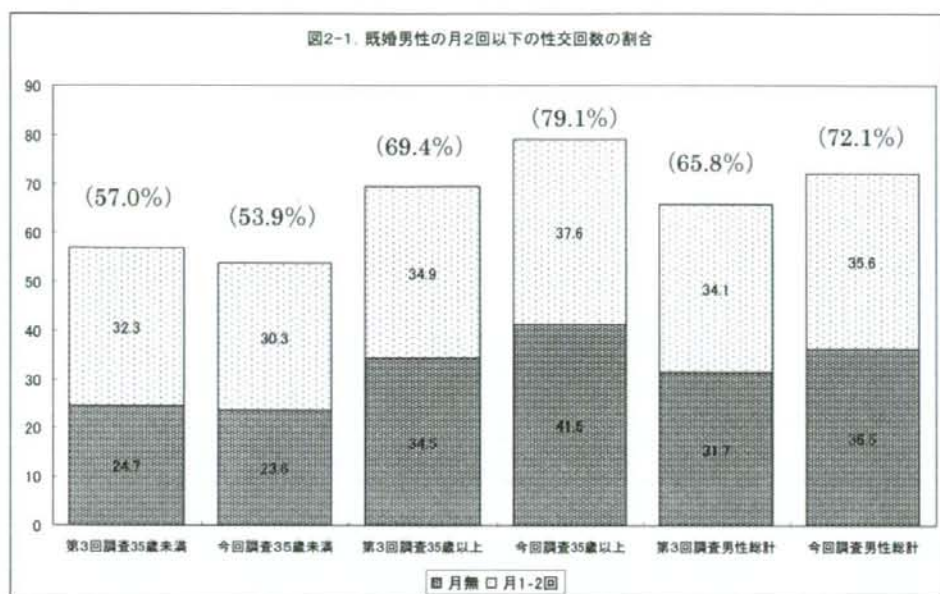


図2は既婚者の月2回以下の性交回数割合のみをグラフ化したもので、前回調査時と今回調査時を比較した。対象者数は、無回答者を除き35歳未満前回調査男性93名、女性122名、今回調査男性89名、124名、35歳以上235名と282名に対し234名と324名、男性総数前回328名に対し今回323名、女性総数404名と448名であった。

最近1ヶ月間に性交渉を持たなかった220名の男性と285名の女性にその理由を問いかけている。未婚男性の最も多い理由は「相手がい
ない」が74名74.0%であり、既婚男性では「この中にならない」33名28.0%、次に多いのが「仕事で疲れている」29名24.6%、「出産後なん
となく」16名13.6%と続いていた。

表7-1. 未既婚別男性の1ヶ月間性交渉を持たなかった理由

世代	未婚					既婚					不明	男性総計
	16-24歳	25-34歳	35-44歳	45歳以上	未婚計	16-24歳	25-34歳	35-44歳	45歳以上	既婚計		
相手がいらない	6(42.9)	33(78.6)	26(76.5)	9(90.0)	74(74.0)			4(5.8)	3(10.7)	7(5.9)		81(36.8)
一方的なセックスに不満												
家が狭い									4(14.3)	4(3.4)		4(1.8)
家族のように思えるから							2(10.0)	5(7.2)	1(3.6)	8(6.8)		8(3.6)
仕事で疲れている	2(14.3)	1(2.4)	2(5.9)		5(5.0)		3(15.0)	21(30.4)	5(17.9)	29(24.6)		34(15.5)
出産後なんとなく							4(20.0)	10(14.5)	2(7.1)	16(13.6)		16(7.3)
性交渉があるから												
セックスより他に楽しいこ とがある	2(14.3)	3(7.1)	2(5.9)	1(10.0)	8(8.0)				1(3.6)	3(2.5)		11(5.0)
妊娠への不安	1(7.1)				1(1.0)			2(2.9)		2(1.7)		3(1.4)
EDの不安		1(2.4)			1(1.0)			1(1.4)	1(3.6)	2(1.7)		3(1.4)
面倒くさい	2(14.3)	2(4.8)	2(5.9)		6(6.0)			6(8.7)	5(17.9)	11(9.3)		17(7.7)
この中にならない	1(7.1)	2(4.8)	2(5.9)		5(5.0)		11(55.0)	17(24.6)	4(14.3)	33(28.0)	1	39(1.8)

III. 性行動の小括

1. 性交経験

性交経験の有無をみると既婚者は当然のことながら全員があると答えており、未経験者は未婚男性の26.7%、未婚女性で31.1%と女性が4.4ポイント高いものの有意差は認められなかった。未婚者の5歳階級別で検討しても男女間で有意差は認めなかった。

前回調査からみても各年齢における性交経験者の割合は同じであり、ここ数年間に於いて年次的に変化するということは窺われなかった。

性交経験者の各年齢の平均値を取り、対数近似曲線を描くと男女とも同じ曲線で強い相関が認められ、20歳で50%、25歳で70%が経験すると推測することができた。

2. 過去1年間の性交パートナー数

過去1年間の性交パートナー数について、未婚男性は「一人」38.0%、「一人以上」37.2%、「なし」22.1%、「無回答」2.8%であり、既婚男性「一人」76.4%、「一人以上」16.0%、「なし」9.4%、「無回答」3.2%であった。未婚女性は「一人」50.5%、「一人以上」26.4%、「なし」20.7%、「無回答」2.4%、既婚女性「一人」73.3%、「一人以上」3.8%、「なし」15.0%、「無回答」7.9%であった。

このことは複数のパートナーを持っているのが未既婚とも男性に多いことが示されていた。しかし、複数のパートナーとの関係性は前回調査時よりも低下していた。ここで問題視しなければならないのは、既婚者で1年間1回もなかったのが、男性9.4%、女性15.0%と1割もいたことである。35歳の既婚女性では2割近くまでになっていたことは少子社会への重要な鍵を示すものではないかと考える。

3. 決まった交際相手（配偶者を含む）以外でのセックスの関係

決まった交際相手（配偶者を含む）以外でのセックスの関係が「いる」と答えた未婚男性は18.8%、「いない」が84.9%、「無回答」2.3%で、既婚男性「いる」が10.4%、「いない」87.9%、「無回答」1.8%であった。未婚女性は「いる」が10.6%、「いない」87.5%、「無回答」1.9%、既婚女性「いる」9.7%、「いない」87.5%であった。

前項のマルチパートナーを過去1年間に性的関係のあったものからみたのが表6-1であり未婚男性は5割近く、既婚男性12.5%、未婚女性は3分の1強、既婚ではわずか5%といずれも女性が低値を示していた。しかし、表6-2に示したように現在決まった交際相手（配偶者を含む）以外との性的関係を持っているものについてみると未婚男性20.3%、女性10.8%と半減していた。この設問に対する既婚者の回答は不倫的な性関係を意味するところであり、未婚男性の35歳未満が6.5%、35歳以上12.2%と1割であり、女性も未婚で8.7%、既婚11.0%と男性とほぼ同等の値を示していた。

このことは次の項の1ヶ月間の性交頻度の低下と合わせ考える必要があるのではないかと思われた。

4. 最近1ヶ月間の性交頻度

最近1ヶ月間の性交頻度について、少子化問題と望まない妊娠を考慮するなら「週1回以上」と「月3~4回」を妊娠高レベル群、「月1~2回」と「月1度もなし」妊娠例レベル群と置き換えてみると、妊娠高レベル群は未婚男性32.8%、既婚男性26.5%、未婚女性30.3%、既婚女性24.5%、妊娠低レベル群は未婚男性63.8%、既婚男性68.7%、未婚女性67.8%、既婚女性66.2%となる。

月2回以下の性交渉しかもたなかった既婚男女の割合を図2に示したが男性で72.1%、女性73.0%（注：無回答を除いている）と高値が示す背景には、少子社会が問題視されている中で夫婦間の性の営みとしての基本的要素が消失しているように思われた。

家族構築という考えの中においては週に1回が望まれるところであり、月に1回もなしというのが男性で36.5%、女性で41.5%という、いわゆる「セックスレス」というカテゴリーが多いことに性の重さに問題があると指摘されよう。

この設問である問いかけが「この1ヶ月間のセックス回数」という形であったにしても月2回以下の発現率の多さの背景に性（セックス）に対する関心度の低下や異性とのかわりに面倒と考える女性が既婚者に多くみられていたことも考え合わせなければならぬと思われた。

1ヶ月間性交渉をもたなかった理由は、未婚の男性で「相手がいなかった」74.0%、女性67.7%という数値は背けるところである。しかし、既婚者の理由で挙げられていたのが「仕事で疲れている」男性24.6%、女性15.1%、次に多いのが「出産後なんとなく」男性13.6%、女性21.0%であり、更に「面倒だ」というのが女性21.5%と男性の9.3%に対し高値で有意差を認めていることは性に対する関心度を失い、異性とのかわりを煩わしく感じるようになっていく点がセックスレスに寄与しているように窺われ、その要因を女性側がもたらしているようであった。

本項で示された性的営みが複数のパートナーを持つ未婚者の多いことと、既婚者においても約1割が配偶者以外の不倫的関係性を持っていたことは、「生殖の性」というより「快楽の性」としての意識が介在して、実質的な性交頻度の低下に結びついているのではないかと思われた。

IV章. 初交について

1. 初交年齢

初交時の年齢について問いかけている。これに回答が得られた男性は511名で12歳から34歳、平均 18.8 ± 3.1 歳であった。女性は618名で13歳から38歳、平均年齢 19.1 ± 3.1 歳で男女間に有意差は認められなかった。

初交時の年齢分布をみると、「17歳以下」男性27.8%、女性26.3%、「18-19歳」33.2%と29.2%、「20-24歳」26.6%と26.1%、「25歳以上」4.1%、5.5%、「無回答」8.3%、13.0%であり、20歳未満で男性61.0%、女性55.5%が性交を経験していた。

表1. 初交年齢の構成比

	17歳以下	18-19歳	20-24歳	25歳以上	無回答	総計
男性	155(27.8)	185(33.2)	148(26.6)	23(4.1)	46(8.3)	557(100)
女性	187(26.3)	207(29.2)	185(26.1)	39(5.5)	92(13.0)	710(100)
総計	342(27.0)	392(30.9)	333(26.3)	62(4.9)	138(10.9)	1,267(100)

過去3回調査の結果の比較を表2に示す。

表2. 調査年次別の男女別初交時平均年齢

	男性平均年齢 (n= ; Min-Max)	女性平均年齢 (n= ; Min-Max)
第1回調査(2002年)	18.9 \pm 3.1歳 (n=476 ; 11-42歳)	19.7 \pm 3.2歳 (n=598 ; 12~35歳)
第2回調査(2004年)	19.2 \pm 3.4歳 (n=498 ; 13~39歳)	19.4 \pm 3.4歳 (n=646 ; 10~31歳)
第3回調査(2006年)	19.0 \pm 3.2歳 (n=498 ; 12~37歳)	19.4 \pm 3.3歳 (n=590 ; 13~38歳)
第4回調査(2008年)	18.8 \pm 3.1歳 (n=511 ; 12~34歳)	19.1 \pm 3.1歳 (n=618 ; 13~38歳)

第1回調査時においてのみ男女間に男性の方が初交年齢は早いと有意差($p < 0.001$)を認めたが、以降は男女間には有意差を認めていない。しかしながら、女性においてのみ調査年次毎に早まっており、女性の平均初交年齢において第1回と今回の調査時の比較において有意差($p < 0.001$)を認めた。

2. 初交に対する認識

初交時に対する認識として「かなり重大に考えていた」が初交年齢不明と無回答者を除き検討すると男性510名中129名(25.3%)、女性618名中261名(42.2%)であり女性が高値で男女間に有意差($p < 0.001$)を認めた。初交年齢が18歳未満の男性で「かなり重大」に捉えていたのは154名中32名(20.8%)、18-19歳では185名中42名(22.7%)、20-24歳148

名中47名(31.8%)、25歳以上23名中8名(34.8%)となっていた。女性では17歳以下が33.7%、18-19歳42.0%、20-24歳47.0%、25歳以上61.5%となっており、「少なくとも重大」と捉えていたのが17歳以下79.2%、18-19歳82.2%、20-24歳73.6%、25歳以上91.3%となり、各年代間で有意差は認めなかった。女性では17歳以下65.2%、18-19歳73.4%、20-24歳83.8%、25歳以上89.7%と初交年齢が遅くなるにつれ重大と捉えるのが多くなり、18-19歳と20-24歳との間に有意差($p < 0.05$)を認めた。

初交年齢からみると男女とも20歳を境にして大きく異なっているように思われた。そこで初交年齢を20歳未満と20歳以降に分けて検討を加えることとした。

表3. 初交に対する認識

	世代	かなり重大なこと	やや重大なこと	やや軽く考えていた	かなり軽く考えていた	総計
男性	17歳以下	32(20.8)	37(24.0)	54(35.1)	31(20.1)	154(100)
	18-19歳	42(22.7)	72(38.9)	53(28.6)	18(9.7)	185(100)
	20-24歳	47(31.8)	62(41.9)	32(21.6)	7(4.7)	148(100)
	25歳以上	8(34.8)	13(56.5)	2(8.7)		23(100)
男性計		129(25.3)	184(36.1)	141(27.6)	56(11.0)	510(100)
女性	17歳以下	63(33.7)	59(31.6)	48(25.7)	17(9.1)	187(100)
	18-19歳	87(42.0)	65(31.4)	49(23.7)	6(2.9)	207(100)
	20-24歳	87(47.0)	68(36.8)	27(14.6)	3(1.6)	185(100)
	25歳以上	24(61.5)	11(28.2)	4(8.7)		39(100)
女性計		261(42.2)	203(32.8)	128(27.6)	26(4.2)	618(100)
総計		390(34.6)	387(34.3)	269(23.8)	82(7.3)	1,128(100)

20歳未満の男性では少なくとも重大と捉えていたのは339名中183名(54.0%)に対し20歳以上は171名中130名(76.0%)と両者間に有意差($p < 0.001$)を認めた。同様に20歳未満女性394名中274名(69.5%)と20歳以上224名中190名(84.8%)であり両者間に有意差($p < 0.001$)を認めた。男女間の20歳未満と20歳以上の間においても有意差($p < 0.001$ 、 $p < 0.05$)を認め、特に20歳未満で初交を持った男性においては女性の処女性に対する認識の低いことが窺われた。

この初交に対する認識を「重大なこと」と考えるのをプラス思考、「軽く考えていた」というのをマイナス思考と捉え重み付けをして「かなり重大なこと」と感じているものにプラス2点、「やや重大なこと」を1点、「やや軽く考えていた」マイナス1点、「かなり軽く考えていた」マイナス2点としてスコアリングして検討してみた。

男性の535名全体のスコアは 0.33 ± 1.40 点、女性658名では 0.90 ± 1.26 点と有意差($p < 0.001$)をもって大きな違いがみられた。35歳未満の男性は 0.31 ± 1.45 点、35歳以上では 0.35 ± 1.38 点と世代間では有意差は認めなかったが、初交年齢が20歳未満であった男

性は 0.15 ± 1.44 点 ($n=339$) に対し 20 歳以降では 0.80 ± 1.21 点 ($n=171$) と全女性の捉え方に近い値であった。女性の 35 歳未満では 0.76 ± 1.33 点 ($n=267$)、35 歳以上 0.99 ± 1.21 点 ($n=391$) と年代が高い方に有意差 ($p < 0.01$) を認めた。初交年齢が 20 歳未満では 0.71 ± 1.35 点 ($n=394$)、20 歳以降 1.18 ± 1.07 点 ($n=224$) であり有意差 ($p < 0.001$) を認め高値であった。

このことは処女性を大切に思う気持ちが当然のことながら女性に高く、初交年齢 20 歳を境にしてみると男性が 20 歳未満 0.15 点でしかなかったということは、女性に対する処女性という考えが極めて薄いことが示唆された。

3. 初交相手との出会いのきっかけ

初交相手との出会いのきっかけについて問いかけている。男性は「以前から知っていて次第に好意を持つようになった」が多く 129 名 (25.3%) であった。次は、「友人や先輩からの紹介」123 名 (24.1%)、「職場やアルバイト先」75 名 (14.7%)、「塾・ゼミ・クラブなどの活動の場」71 名 (13.9%) と続いていた。「この中ではない」は 17.1% であった。20 歳未満と 20 歳以上の間での有意差を認めたのは男性計の右上に * 印を付記した。これによると「以前から知っていて…」 「友人や先輩からの紹介」20 歳未満に高値を示し、「塾ゼミクラブサークル…」 「職場やバイト先」 「お見合い」 は 20 歳以降が高値を示していた。

表 4. 初交相手との出会いのきっかけ (*: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$)

性別	男性			女性		
	20 歳未満	20 歳以上	男性計	20 歳未満	20 歳以上	女性計
以前から知っていて次第に好意を持った	103 (30.4)	26 (15.2)	129 (25.3)** *	121 (30.8)	36 (16.1)	157 (25.4)***
友人や先輩からの紹介で	93 (27.4)	30 (17.5)	123 (24.1)*	120 (30.5)	48 (21.4)	168 (27.2)*
塾ゼミクラブサークルボランティア活動で	39 (11.5)	32 (18.7)	71 (13.9)*	35 (8.9)	23 (10.3)	58 (9.4)
職場やアルバイト先で	40 (11.8)	35 (20.5)	75 (14.7)*	71 (18.1)	82 (36.6)	153 (24.8)***
携帯やパソコンを通して	5 (1.5)	1 (0.6)	6 (1.2)	8 (2.0)	1 (0.4)	9 (1.5)
町で声をかけられて	8 (2.4)	2 (1.2)	10 (2.0)	13 (3.3)	4 (1.2)	17 (2.8)
お見合いで	1 (0.3)	8 (4.7)	9 (1.8)*		20 (8.9)	20 (3.2)***
この中ではない	50 (14.7)	10 (21.6)	87 (17.1)	25 (6.4)	10 (4.5)	35 (5.7)
総計	339 (100)	171 (100)	510 (100)	393 (100)	224 (100)	617 (100)

女性は「友人や先輩からの紹介」が多く 168 名 (27.2%) であった。次は、「以前から知っていて次第に好意を持つようになった」157 名 (25.4%)、「職場やアルバイト先」153 名 (24.8%)、「塾・ゼミ・クラブなどの活動の場」58 名 (9.4%) と続いていた。「この中ではない」は 5.7% であった。20 歳未満と 20 歳以降の間での有意差を認めたのは男性同様、女性計の右上に * 印を付記した。男性同様に「以前から知っていて…」 「友人や先輩からの紹介」20 歳未満に高

値を示し、「職場やバイト先」「お見合い」は20歳以降が高値を示していた。

4. 初交時のきっかけ

初交に至った際のきっかけについて問いかけている。男性は「愛していたから」が最も多く51.2%であり、次は、「遊びや好奇心で」が男性25.9%、「この中不在」11.7%であった。20歳未満と20歳以降の間での有意差を認めたのは男性計の右上に*印を付記した。これによると「愛していたから」は20歳以上が高値で有意差($p < 0.05$)を認めた。「なんとなく」は20歳未満が高値で有意差($p < 0.05$)を認めた。

女子では「愛していたから」が65.4%と男性よりも高値を示し有意差($p < 0.001$)を認めた。次に高値であったのが「遊び好奇心から」で9.6%、男性に比べ低値であり有意差($p < 0.001$)を認めた。「愛していたから」は20歳以上が75.6%と高く有意($p < 0.001$)であった。「遊び好奇心から」は20歳未満に高く有意($p < 0.001$)であった。

表5. 初交時の動機(*: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$)

世代	男性			女性		
	20歳未満	20歳以上	男性計	20歳未満	20歳以上	女性計
愛していたから	158(47.0)	101(59.4)	259(51.2)*	234(59.7)	167(75.6)	401(65.4)***
遊び好奇心から	96(28.6)	35(20.6)	131(25.9)	50(12.8)	9(20.6)	59(9.6)***
酒を飲んだ勢いで	6(1.8)	5(2.9)	11(2.2)	7(1.8)	3(1.4)	10(1.6)
相手を繋ぎとめておきたい	2(0.6)		2(0.4)	3(0.8)		3(0.5)
無理やり迫られて	4(1.2)		4(0.8)	16(4.1)	6(2.7)	22(3.6)
友人に遅れたくなくて	3(0.9)	2(1.2)	5(1.0)	6(0.9)	3(1.2)	9(1.5)
お金を欲しくて				1(0.3)		1(0.2)
ただなんとなく	28(8.3)	5(0.6)	33(6.5)*	36(8.3)	14(6.3)	50(6.5)
寂しくて	1(0.3)	1(0.6)	2(0.4)	2(0.5)		2(0.3)
この中不在	38(11.3)	21(12.4)	59(11.7)	19(8.6)	19(12.4)	56(9.1)
総計	336(100)	170(100)	506(100)	392(100)	221(100)	613(100)

4. 初交時の印象

初交時の印象について問いかけている。男性は「うれしかった」と答えているのが56.8%で、次に多かったのが「この中不在」14.7%、「なんとも感じなかった」が12.4%、「肩の荷が下りた感じ」7.7%、「期待はずれで落胆した」6.7%であった。

女性は「うれしかった」と答えるのが43.3%で、男性に比べ低値を示し有意差($p < 0.001$)を認めた。次に多かったのが「この中不在」28.3%、男性より高値で有意($p < 0.001$)であった。「期待はずれで落胆した」11.0%、男性より高値で有意($p < 0.05$)であり、「なんとも

感じなかった」10.0%、「肩の荷が下りた」4.1%と男性より低値で有意($p<0.05$)であった。「この中ではない」が男性に比べ有意に高値であったことは、5項目の設問中には語り尽くせない複雑な心理的な面が窺われた。

また、20歳未満と20歳以上における各項目においては男女共に違いは認められなかった。

表 6. 初交時の印象

世代	男性			女性		
	20歳未満	20歳以上	男性計	20歳未満	20歳以上	女性計
うれしかった	182(53.8)	107(62.6)	289(56.8)	162(41.6)	101(46.1)	263(43.3)
肩の荷が下りた感じ	23(6.8)	16(9.4)	39(7.7)	12(6.8)	13(5.9)	25(4.1)
なんとも感じなかった	46(13.6)	17(9.9)	63(12.4)	49(12.6)	12(9.9)	61(10.0)
期待はずれで落胆した	24(7.1)	10(5.8)	34(6.7)	49(12.6)	18(5.8)	67(11.0)
むなしく後悔した	6(1.8)	3(1.8)	9(1.8)	16(4.1)	4(1.8)	20(3.3)
この中ではない	57(16.9)	18(10.5)	75(14.7)	101(26.0)	71(32.4)	172(28.3)
総計	338(100)	171(100)	509(100)	389(100)	219(100)	608(100)

5. 出会いから初交までの期間

出会いから初交までの期間について問いかけている。男性は「出会ったその日」と回答するものが62名(11.1%)、未婚15.0%、既婚8.8%で未婚者に有意($p<0.05$)に高値となっていた。しかも、表には示していないが年齢が進むにつれその値が高くなっていた。3ヶ月未満までに初交に至っていたのが319名(57.3%)と半数以上で、未婚は142名(66.7%)、既婚176名(51.9%)と未婚に高く有意差($p<0.001$)を認めた。交際期間が1年以上経過しての初交は、わずか未婚6.1%、既婚9.4%に過ぎなかった。

表 7. 出会いから初交までの期間

性別	その日	1ヶ月未満	3ヶ月未満	1年未満	1年以上	無回答	総計
未婚男性	32(15.0)	64(30.0)	46(21.6)	51(23.9)	13(6.1)	7(3.3)	213
既婚男性	30(8.8)	63(18.6)	83(24.5)	108(31.9)	32(9.4)	23(6.8)	339
未既婚不明男性		1(20.0)				4(80.0)	5
男性総計	62(11.1)	128(23.0)	129(23.2)	159(28.5)	45(6.1)	34(6.1)	557
未婚女性	13(6.3)	50(24.0)	56(26.9)	62(29.8)	17(8.2)	10(4.8)	208
既婚女性	10(2.0)	70(14.2)	95(19.2)	208(42.1)	54(10.9)	57(11.5)	494
未既婚不明女性		2(25.0)	1(12.5)	1(12.5)		4(50.0)	8
女性総計	23(3.2)	122(17.2)	152(21.4)	271(38.2)	71(10.0)	71(10.0)	710

女性は「出会ったその日」が 23 名 (3.2%) と男性に比べ有意 ($p < 0.001$) に低値で、未既婚とも低値で有意差 ($p < 0.01$, $p < 0.001$) を認めた。また、交際から 3 ヶ月未満までに初交に至ったのは 297 名 (41.8%) と、これも女性の方が低値で有意差 ($p < 0.001$) を認めた。未婚は 119 名 (57.2%) と男性に比べ 9.5 ポイント低くなっているものの傾向は認められるも有意差を認めるには至ってなかった。既婚では 175 名 (35.4%) で男性に比べ有意 ($p < 0.001$) に低値であった。

交際期間が 1 年以上経過しての初交は 10% 程度で、女性の性交経験者は、交際から 1 年以内に 90% が男性同様に性交に至っていることが明らかとなった。

表 8. 初交時年齢区分からみた出会いから初交までの期間 (無回答者を除く)

(*: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$)

性別	その日	1 ヶ月未満	3 ヶ月未満	1 年未満	1 年以上	総計
20 歳未満男性	29 (8.6)	97 (28.9)	89 (26.5)	92 (27.4)	29 (8.6)	336
20 歳以降男性	32 (19.3)	24 (14.5)	39 (23.5)	57 (34.3)	14 (8.4)	166
男性総計	61 (12.2)**	121 (24.1)***	128 (25.5)	149 (29.7)	43 (8.6)	502
20 歳未満女性	17 (4.4)	88 (22.7)	99 (25.5)	148 (38.1)	36 (9.3)	388
20 歳以降女性	4 (1.8)	27 (12.4)	47 (21.6)	111 (50.9)	29 (13.3)	218
女性総計	21 (3.5)	115 (19.0)**	146 (24.1)	259 (42.7)**	65 (10.7)	606

これを初交時年齢区分、25 歳未満と 20 歳以降とに分けてみると、男性では出会ったその日に及んだのが 20 歳以降で有意に多く、1 ヶ月未満では 20 歳未満に有意に多かった。女性は 20 歳未満では 1 ヶ月未満群で、3 ヶ月以降 1 年未満で 20 歳以降群に有意に高値であった。

6. 初交後の交際期間

初交後の交際期間について問いかけている。進行中のカップルも現時点での期間を記入するようになっているため、「交際が終了した」期間として捉えることができない。「1 週間未満」は、その殆どは終了したとし、「3 ヶ月未満」も大半は終了したとして考えてみた。

男性の「1 週間未満」は 68 名 (12.2%)、未婚 16.0%、既婚 10.0% であり、未婚者が既婚者に比べ有意差は認めないものの短期間に終了していた。3 ヶ月未満でみると男性で 160 名 (28.7%)、未婚 81 名 (38.0%)、既婚 79 名 (23.3%) となり、未婚者が有意 ($p < 0.001$) に高値となっていた。

初交から 1 年以上交際が続いているものは未婚者が 28.6%、既婚者 43.1% となり後者が有意 ($p < 0.001$) に高値を示していた。これは初交から結婚へと至っているのが多く含まれて

いたためと考える。

女性の「1週間未満」は27名(3.8%)、未婚8.2%、既婚2.0%であり、未婚者が既婚者に比べ有意($p<0.001$)に短期間で交際が終了していることが明らかとなった。また、男性に比べ未婚とも低値であり有意差($p<0.05$, $p<0.001$)を認めた。3ヶ月未満でみると119名(24.1%)、未婚57名(27.4%)、既婚61名(12.3%)となり、未婚者が有意($p<0.001$)に高値であり、男性に比べると共に低値で有意差($p<0.05$, $p<0.001$)を認めた。いずれにしても、初交から3ヶ月未満で関係が終焉しているのが男性の無回答を除く520名中160名(30.8%)、女性644名中119名(18.5%)と有意差($p<0.001$)を認めていることから処女性の認識の違いが明らかに示されていた。

表9. 初交後の交際期間

世代	1週間未満	1月未満	3月未満	1年未満	1年以上	無回答	総計
未婚男性	34(16.0)	18(8.5)	29(13.6)	64(30.0)	61(28.6)	7(3.3)	213
既婚男性	34(10.0)	13(3.8)	32(9.4)	88(26.0)	146(43.1)	26(7.7)	339
未既婚不明男性					1(20.0)	4(80.0)	5
男性総計	68(12.2)	31(5.6)	61(11.0)	152(27.3)	208(37.3)	37(6.6)	557
未婚女性	17(8.2)	14(3.9)	26(12.5)	44(20.0)	95(45.7)	12(5.8)	208
既婚女性	10(2.0)	19(3.8)	32(6.5)	99(20.0)	284(57.5)	50(10.1)	494
未既婚不明女性		1(12.5)		1(12.5)	2(25.0)	4(50.0)	8
女性総計	27(3.8)	34(4.8)	58(8.2)	144(20.3)	381(53.7)	66(9.3)	710

初交時の年齢区分から初交後の交際期間をみると20歳以降での男性は、その場限りといえる1週間未満で交際が終わっているのに有意差を認めたが、1年未満においては20歳未満が有意に高値を示していた。1年以上続いているものは20歳以降が有意に高値であった。

また女性においては、初交年齢が20歳未満群に1年未満に終焉しているのが有意に高値で、1年以上続いているのは20歳以降の初交年齢群において有意に高値であった。この男女間に違いと20歳を境とした違いは、処女性に対する認識の違いとも思われた。

表10. 初交時年齢区分からみた初交後の交際期間(無回答者を除く)

(*: $p<0.05$, **: $p<0.01$, ***: $p<0.001$)

性別	1週間未満	1月未満	3月未満	1年未満	1年以上	総計
20歳未満男性	36(10.9)	22(6.7)	51(15.5)	108(32.7)	113(34.2)	330
20歳以降男性	32(18.9)	6(3.6)	9(5.3)	40(23.7)	82(48.5)	169
男性総計	68(13.6)*	28(5.6)	60(12.0)**	148(29.7)*	195(39.1)**	499
20歳未満女性	23(6.0)	26(6.7)	43(11.1)	96(24.9)	198(51.3)	386
20歳以降女性	4(1.8)	6(2.7)	9(4.1)	39(17.8)	161(73.5)	219
女性総計	27(4.5)*	32(5.3)	52(8.6)**	135(22.3)*	359(59.3)***	605

出会いから初交までの期間と初交後からの交際期間の関係性について、男女別について検討を加えると表 11 のようになり、男性は出会ったその日が初交であった場合は 85.0% が 1 週間未満で交際が終わっている。交際期間が 1 年以上での初交の場合は、その後の交際期間も 1 年以上が 77.8% であった。

女性は出会ったその日が初交であった場合は 63.6% であり、その後の交際期間も 1 年以上続くものが 22.7% であった。女性が 1 ヶ月以上の交際期間を持つての初交であれば 5 割が 1 年以上の交際となり結婚形態をとるのが多い可能性が示唆された。

表 11-1. 男性の出会いから初交、初交後からの交際期間の関係性

男性	1 週間未満	1 月未満	3 月未満	1 年未満	1 年以上	総計
その日	51(85.0)	4(6.7)	2(3.3)	3(5.0)		60(100)
1 月未満	10(8.0)	19(15.2)	28(22.4)	34(27.2)	34(27.2)	125(100)
3 月未満	1(0.8)	3(2.3)	19(14.8)	51(39.8)	54(42.2)	128(100)
1 年未満	4(2.8)	3(2.1)	10(6.9)	55(37.9)	73(50.3)	145(100)
1 年以上	2(3.7)	1(1.9)	1(1.9)	8(14.8)	42(77.8)	54(100)
総計	68(13.3)	30(5.9)	60(11.7)	151(29.5)	203(39.6)	512(100)

表 11-2. 女性の出会いから初交、初交後からの交際期間の関係性

女性	1 週間未満	1 月未満	3 月未満	1 年未満	1 年以上	総計
その日	14(63.6)	2(9.1)	1(4.5)		5(22.7)	22(100)
1 月未満	8(6.7)	18(15.1)	24(20.2)	30(25.2)	39(32.8)	119(100)
3 月未満	2(1.3)	7(4.7)	20(13.3)	38(25.3)	83(55.3)	150(100)
1 年未満	2(0.7)	3(1.1)	9(3.3)	67(24.9)	188(69.9)	269(100)
1 年以上	1(1.5)	2(2.9)	3(4.4)	5(7.4)	57(83.8)	68(100)
総計	27(4.3)	32(5.1)	57(9.1)	140(22.3)	372(59.2)	628(100)

7. 初交時の避妊実行の有無

初交時の避妊実行の有無について問いかけている。男女別・未既婚別・世代別に避妊実行の有無を表 12 に示すが、この表は現在の立場からのため参考程度にしか過ぎない。

表 12 では避妊を初交時に実行した男性は 380 名 68.2%、未実行 135 名 24.2%、女性実行 412 名 58.0%、未実行 167 名 23.5% であった。

表 12. 初交時の避妊実行の有無

世代	実行	未実行	覚えていない	無回答	総計
未婚男性	150(70.4)	48(22.5)	12(5.6)	3(1.4)	213
既婚男性	229(67.6)	86(25.4)	12(3.5)	12(3.5)	339
未既婚不明男性	1(20.0)	1(20.0)		3(60.0)	5
男性総計	380(68.2)	135(24.2)	24(4.3)	18(3.2)	557

未婚女性	122(58.7)	60(28.8)	21(10.1)	5(2.4)	208
既婚女性	286(57.9)	107(21.7)	61(12.3)	40(8.1)	312
未既婚不明女性	4(50.0)			4(50.0)	8
女性総計	412(58.0)	167(23.5)	82(11.5)	49(6.9)	710

そこで初交時の年齢が明示されて避妊実行の有無に対して無回答のものを除き初交年齢が12歳から38歳と分布していたため10歳代、20歳代前半、20歳後半、30歳代と4群に分けて男女別に検討したのが表13である。

初交時の年齢からみると、10歳代で男性が67.2%、女性は61.4%で男女間に有意差は認められなかった。20歳前半に於いては男性79.7%、女性68.0%と11.7ポイント女性が下回っており、女性が有意($p<0.05$)に低値であった。20歳後半では男性75.0%、女性41.9%と男性が高値の傾向を示すも有意差は認めなかった。30歳代においても男性71.4%、女性50.0%と男性が高値を示すも有意差は認められなかった。

いずれにしても、避妊の実行者は男性の方が高く、女性は初交年齢が高くなるにつれ避妊実行率は、著しく低下していた。男性は23名中15名(65.2%)に対し女性39名中17名(43.6%)と有意差は認められないが、心理的な背景には妊娠してもかまわないという思いが隠されていたのではないかと考える。

それは次の項で明らかにされるが、初交時の避妊法が男性主導の「コンドーム」もしくは「膣外射精法」ということと、「愛していた」が75.6%という数値から窺い知れる。

表13. 男女別年代別初交時の避妊実行の有無

	初交年代	実行	未実行	覚えていない	総計
男性	10歳代	227(67.2)	95(28.1)	16(4.7)	340(100)
	20-24歳	118(79.7)	26(17.6)	4(2.7)	148(100)
	25-29歳	12(75.0)	3(18.8)	1(6.3)	16(100)
	30歳代	5(71.4)	1(14.3)	1(14.3)	7(100)
男性計		362(71.1)	125(24.6)	22(4.3)	557(100)
女性	10歳代	240(61.4)	98(25.1)	53(13.6)	394(100)
	20-24歳	123(68.0)	43(23.8)	15(8.3)	185(100)
	25-29歳	13(41.9)	14(45.2)	4(12.9)	31(100)
	30歳代	4(50.0)	4(50.0)		8(100)
女性計		380(62.2)	159(26.0)	72(11.8)	710(100)

8. 初交時に取った避妊法

初交時に取られた避妊法として男女共に問いかけているが、男性実行者 362 名中「コンドーム」が大多数で 333 名(90.3%)、女性 376 名中 336 名(89.4%)であり、それに続くのが「膣外射精法」6.6%、9.6%と女性に高いものの有意差は認められていない。ピル(経口避妊薬)や BBT など他の避妊法は男性で 3 名、女性 4 名と少なかった。

初交時に取られた避妊法として「コンドーム」と「膣外射精法」を除いてとられたのは男性 362 名中 5 名(1.5%)、女性 376 名中 4 名(1.1%)という結果から相手任せの避妊であり女性主導の避妊法の考えに欠如していたと指摘されよう。

表 11. 初交時に取られた避妊法

	初交年代	コンドーム	膣外射精	ピル	オギノ式	BBT 法	この中 にない	総計
男性	10 歳代	214(94.3)	12(5.3)				1(0.4)	227
	20-24 歳	106(89.8)	9(7.6)	3(2.5)				118
	25-29 歳	8(66.7)	3(25.0)				1(8.3)	12
	30 歳代	5(100.0)						5
男性計		333(90.3)	24(6.6)	3(0.8)			2(0.6)	362
女性	10 歳代	214(90.3)	21(8.9)	2(0.8)				237
	20-24 歳	107(87.7)	13(10.7)		1(0.8)	1(0.8)		122
	25-29 歳	11(84.6)	2(15.4)					13
	30 歳代	4(100.0)						4
女性計		336(89.4)	36(9.6)	2(0.5)	1(0.3)	1(0.8)		376